

市民公開講座



『禁煙・たばこの害』



2011年6月25日、『たばこ』をテーマに市民公開講座を開催しました。2010年のタバコ税増税の影響もあり、特に、禁煙に挑戦しようと考えている喫煙者やその御家族にとっては、興味深いテーマだったのではないか。

第1部の『知って得するタバコの話』では呼吸器内科の川島辰男先生が禁煙の効果について紹介しました。一見、煙草とは関係がないと思える、脳卒中や心筋梗塞、白内障、糖尿病などの健康面のリスクが低下するメリットがあります。しかし、タバコを節制したり、あるいは、軽いものに変えて、タバコの害そのものは変わらないということを説明して頂きました。また、禁煙治療も保険が適応できるというお話では、たくさんの方々が驚いていたようです。

続いて、第2部では、循環器センター・野池博文先生が、『タバコの障害』について、客観的な禁煙の効果の説明を行いました。動脈硬化の指標で、血管の硬さを示すCAVI検査を用いて、禁煙の効果を考察した所、CAVIの数値が高いほど動脈硬化は進行しているということを示すそうですが、禁煙成功者は、CAVIが低下しているとのことでした。

当院では、問診の結果、喫煙の依存度が高い患者さんを対象に、治療を行っており、禁煙成功率は約60%となっております。治療方法も様々で、①ニコチンパッチ療法、②ニコチンガムによる治療、③ニコチンを含まない飲み薬を用いた治療を主に行っています。まずは、自分の禁煙に対する依存度を知るきっかけとして、気軽に受診をしてみては如何でしょうか。

■市民公開講座スケジュール■ 【入場無料・申込不要】 今後とも、当院では市民公開講座にて皆様にお役に立つ医療情報を積極的に提供いたします。

- 9/24(土) <肺がんについて・がん撲滅キャンペーン> 外科的治療・内科的治療と緩和ケア(呼吸器内科・外科)(変更)
- 10/22(土) <動脈硬化> 画像診断・虚血性心疾患の治療坑動脈硬化対策～血管弹性検査を指標に～(循環器センター・糖尿病・内分泌・代謝センター)
- 11/26(土) 「ものわすれ」(認知症)と共に歩む“診断と治療”(神経内科・他)
- 12/24(土) <知っておきたい加齢に伴う眼の病気> 老人性黄斑変性症・白内障・緑内障
- 1/28(土) <糖尿病> 糖尿病の予防と治療 フットケア・糖尿病性足潰瘍の保存療法と手術(糖尿病・内分泌・代謝センター・形成外科)(変更)
- 2/25(土) 「めまいを起こさないためには…」(耳鼻咽喉科)(変更)
- 3/24(土) <帯状疱疹><帯状疱疹後神経痛>(皮膚科・麻酔科)

『～しびれ・ふるえと共に歩む “診断と治療”～』

去る平成23年7月30日(土)、「しびれ・ふるえ」の症状にフォーカスをあてた市民公開講座を開催しました。当日の参加者は214名であり、たいへん多くの市民の方にご参加いただきました。

今回は、神経内科より本態性振戦やパーキンソン病症状を含めたしびれ・ふるえのオーバービューと手根管症候群や糖尿病症状を含めた手足のしびれについて紹介しました。続いて、小児科領域のしびれ・ふるえ、整形外科より頸椎症などの手のしびれ、脳神経外科からみたふるえ・しびれに対する治療(DBS、脊髄刺激など)についてお話し、薬剤部よりふだん患者さんが服用している薬についてわかりやすく解説いたしました。

神経内科らの合同企画による市民公開講座では、毎回多岐に渡る診療科・職種による講座内容を提供しています。今後とも、市民の皆様や患者さん・ご家族に有意義な講座となるよう企画検討してまいります。



東邦大 佐倉だより



Vol. 14 2011.9.1

東邦大学医療センター佐倉病院
発行 広報委員会・東邦佐倉会事務局
〒285-8741
千葉県佐倉市下志津564番地1
TEL 043-462-8811(代)
FAX 043-462-8820(代)
URL <http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp>



佐倉病院開院20周年を迎えて

管理担当院長補佐
医療連携・患者支援センター長
鈴木 啓悦

本年1月より、管理担当院長補佐ならびに医療連携・患者支援センター長を務めさせていただいております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

佐倉病院は本年9月をもって、開院20周年を迎えます。9月3日には、ウィッシュトン・ホテル・ユカリにおきまして記念式典・祝賀会を開催させていただくほか、記念誌を発刊いたしました。

『20歳』は、人間でいえば成人の年にあたります。佐倉病院が開院した1991年はバブル景気の弾けた年であり、その後の日本はいわゆる長期不況(失われた20年)となりました。佐倉病院の20年はまさに日本の低迷と重なりながらも、印旛市郡・八千代市をはじめとする医師会の先生方、佐倉市をはじめとする行政の皆様のご協力もあり、着実に成長を遂げることができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

しかしながら当院は、病床数に対する外来患者数は全国有数である反面、慢性的な病床不足や、外来待ち時間の長期化が懸念されます。限られた医療資源を有効利用し、当院が大学病院として、急性期病院としてその使命をしっかりと果たすことができますようお手伝いするのが、医療連携・患者支援センターです。初代センター長・館野昭彦先生のもと設立され、加藤良二先生、鈴木と引き継がせていただ

医療の目的
質の高い医療を安全に提供する病院
病診(病)連携
地域に貢献する病院
教職員のあり方
人間愛を共有する病院
職場環境
楽しく明るくチャレンジする病院
生涯教育
良き医療人を育成する病院

質の高い公正な医療が受けられます
個人の尊厳が守られます
個人のプライバシーが保障されます
必要な医療情報の説明が受けられます
セカンドオピニオンが保障されています
医療行為について自己選択ができます



Topics News
佐倉病院開院20周年を迎えて 管理担当院長補佐／医療連携・患者支援センター長 鈴木啓悦
新任教員の紹介 ■産婦人科／教授 木下俊彦 ■産婦人科／准教授 竹下直樹 ■産婦人科／講師 内出一郎
医療連携だより 第1回千葉県佐倉地区医療連携セミナー開催 紹介患者さまのご返信について(紹介元の先生方へ)
市民公開講座 ■『禁煙・たばこの害』 ■『～しびれ・ふるえと共に歩む“診断と治療”～』

いております。紹介・逆紹介の推進、退院・転院の促進、地域医療機関との連携強化、地域連携パスの導入など、医療活動の円滑化を図る部署として活動しております。最近では、セカンドオピニオン外来の開設、大腿骨頸部骨折地域医療連携パスの運用開始、「連携医療機関証」の発行、「医療連携セミナー」(診療科ごとの病診連携のための勉強会)の開催などを行って参りました。本広報誌にも、「医療連携たより」のコーナーを設けて、情報発信を図ることにしました。今後ますます、医療連携は地域医療の観点からも非常に重要であると考えております。是非とも、皆様方のより一層のご協力どうぞよろしくお願い申し上げます。

小職の専門は泌尿器科であります。医療連携の長という立場もあり、院外の先生方との連絡をより密にする目的で、今年7月に<佐倉病院泌尿器科たより>という小冊子を発刊しました。部数に限りがあり、1年間に患者紹介いただいた県内医療機関にお送りさせていただきました。診療科に関する情報のほか、設備・医療連携に関するお知らせなども掲載しております。あわせてご覧いただければ幸いです。

末筆ながら、これまでの20年間のご支援に再度感謝申し上げますとともに、より一層のご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

新任教員の紹介

平成22年12月から竹下直樹准教授、平成23年3月から内出一郎講師が就任いたしました。

竹下准教授は周産期および臨床遺伝学を専門としております。内出講師は婦人科内視鏡手術のプロであり、数多くの腹腔鏡下手術をこれまでに手掛けてこられました。

出生前診断や生殖医療において臨床遺伝学の専門家の果たす役割は高まっております。また良性疾患への腹腔鏡下手術の普及は著しいものであります。

この二人を迎えることでこれまで以上に地域の産婦人科診療に貢献できる体制となりましたのでお知らせいたしますと共に引き続きご高配いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

産婦人科／教授 木下俊彦

産婦人科／准教授 竹下直樹



22年余にわたる東邦大学医療センター大森病院から、このたび平成23年12月1日付で、同医療センター佐倉病院に勤務することとなりました、竹下直樹と申します。何卒宜しくお願い申し上げます。

私は、1982年、東邦大学に入学、1988年卒業後、直ちに東邦大学医学部第1産科婦人科学講座の大学院生としてスタート致しました。

入局後、なんと申しましても私にとりまして、大きな転機となったのは Millennium を挟んだ Cornell 大学生殖医療センター (New York) での New York の留学生活でした。まさに、私にとって医師としてのみならず、人生の大きな財産となりました。顕

産婦人科／講師 内出一郎



平成23年3月に大森病院から佐倉病院に異動して参りました。4月には、東邦大学医学部産科婦人科学講座講師を拝命いたしました。私の専門は腹腔鏡下手術であり、日々、手術技術の進歩、改良につとめております。近年、より低侵襲な治療に対する患者の要望は高くなってきており、また少子化、晩婚化といった社会的背景もあり、とくに子宮温存手術に対する要望がさらに高まっています。大森病院での症例データの蓄積から腹腔鏡下子宮筋腫核出術における適

微授精を世界で初めて報告した、Palermo 博士に師事し、生殖医療、生殖遺伝領域について研究することが出来、今も少しづつですが勉強を続けております。専門領域は主に周産期、生殖医療領域であります。特に留学での知識・経験を活かし遺伝に関わりの深い、出生前診断、遺伝カウンセリングについて微力ではありますが日々新しい知識の吸収に務めております。

佐倉病院は、大森からはかなり離れておりますが、付属東邦中学・高校の通学、現在、外勤先として、大先輩の長岡貞雄先生にお世話になっておりますことから、何かの縁を感じております。

今年私は年男です。まさに新天地で、心機一転して、うさぎのごとく高く高くジャンプし、地域医療に貢献できますよう頑張る所存です。

医療連携たより

第1回千葉県佐倉地区医療連携セミナー開催

去る平成23年6月17日、東邦大学医療センター佐倉病院1階講義室において『第1回千葉県佐倉地区医療連携セミナー』が開催されました。本セミナーは、毎回異なる幅広い領域をテーマに、地域の先生方のご意見ご要望を直接頂戴し、相互理解を深めることにより、患者さんの健康を地域全体でお支えすることを趣旨としております。

記念すべき第1回は、循環器内科領域の医療連携をテーマとし、講演会及び意見交換会を実施しました。講演会は、みづきが丘クリニック院長 鹿野純生先生に座長をおつとめ頂き、当院循環器センターの野池博文教授より「当院で可能な検査について(オープン検査)」を説明し、また同じく当院循環器センターの清水一寛助教より「東日本大震災を受けた佐倉地区の総括」について報告を行いました。質疑応答では、予定時間を超過するほどたくさんのご質問を頂きました。

講演後、軽食を交えながら行われた意見交換会では、当院に患者さんの紹介を行うときに困る点や、当院側が致し方なく患者さんの紹介をお断りする場合の理由など、忌憚ない活発な議論が行われました。終了後、回収させて頂いたアンケートでは、各医院で実施可能な検査や、紹介を希望する疾患など、貴重なご意見も頂きました。

紹介患者さんの返信について (ご紹介頂いた先生方へ)

ご紹介患者について、紹介元の医療機関に速やかな返信を行うことは当然の責務と考えておりますが、実情として返信の遅延・失念が長年の問題となっていました。

今年度は返信の遅延・失念を根絶するため、医療連携・患者支援センターを中心に病院全体が意識改革に取り組んだ結果、返信率が約15%向上いたしました。今後は返信率100%を目標に掲げて努力してまいります。

ました。

今回の経験を生かし、今後も幅広い領域のセミナーを少人数で定期的に開催することにより、紹介・逆紹介の輪を広げるべく努力して参りたいと思いますので、何卒ご協力お願い申し上げます。



万が一、返信が無い或いはその後の経過連絡がない等、先生方にご不便をおかけするようなことが御座いましたら、下記にご一報いただければ早急に対処させて頂きます。

問い合わせ先

東邦大学医療センター佐倉病院

医療連携・患者支援センター

電話：043-462-8770(直通)/FAX：043-461-2721

受付時間 月～金 10:00～15:00